

中長期目標 (学校ビジョン)		保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる		今年度の 重点目標		1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、物事を批判的に考察し、主体的に行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動等に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	
年 度 当 初							
評価項目	評価の具体項目	現状 (令和4年度実績等)	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況 【() 内の数値は昨年度】	評価	改善方策
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、物事を批判的に考察し、主体的に行動できる力をつける	【自覚と誇りを持つ】 ・規律正しい生活を送っている ・明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができています ・制服を適切に着こなしている	・生徒は概ね規範意識が高く、基本的生活習慣、身だしなみなどでも逸脱せず、落ち着いた学校生活を送っている ・執行部を中心に、校則の見直しに取り組んでいる。 ・生徒の抱える課題の多様化複雑化をうけ、関係機関等と連携し、支援している。 ・中学生体験入学、オープンスクール、鳥商デパートで、生徒が中学生・保護者への説明を行った。 ・人権教育LHR・講演会で人権問題への自らの意識を振返った。 ・生徒へのアンケートより 鳥商に入学して良かった 92.5％ 特別活動に積極的に参加している 92.7％、 安心して学校生活を送ることができる 94.8％。 ・保護者へのアンケートより 鳥商は保護者・地域社会から信頼されている 84％ 生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている 84％	・本校に入学して良かったと思っている生徒が90％以上である。 ・規範意識が高く、社会、学校の規則を守り、自らが考え、場面に応じた行動をとっている。 ・学校行事、生徒会活動、部活動に主体的に取り組む、集団に貢献している生徒が90％以上である。 ・安心して学校生活を送っている生徒が90％以上である。	・鳥商で学びのスタイルを早期に身につけさせ、実社会と関わる経験をもたせることで、将来の社会生活に向けた自立を支援する。 ・学校内外での望ましい行動や態度が学校全体に好影響をもたらし、その結果地域社会からの信頼を得ることができると意識させる。 ・生徒一人ひとりに鳥商生としての自覚を持たせるとともに自主的な行動を促し、学校の活性化に貢献することを意識させる。 ・学校生活アンケート、Q/Uアンケートを継続し、関係機関等と引き続き連携する。	・商業学科集会(4月)にて、今年度の目標達成に向けて必要なことの確認を行った。 ・地域社会からの信頼を得ることへの意識喚起は十分ではなく、継続して実施する必要がある。 ・1年次はビジネス基礎研修やビジネス基礎、フィールドスタディにむけてのLHRでの学習を通して鳥商生としての自覚をもつことができた。 ・中学生体験入学では、中学生への学校や学習内容の説明を生徒が行った。事後アンケートによると丁寧な対応が中学生より好評だった。 ・hyperQUを全学年に対し5月に行い、1年次担任と教育相談係の面談、学年会での情報の共有、個別の対応に役立てた。	B	・2月末の商業学科集会で振り返りをし、来年度へとつなげる。 ・学年団、部活動といったそれぞれの場面で意識づけを行う。 ・学校説明会等の地域とつながる場面で生徒が活躍する機会を設ける。
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・高い規範意識、人権意識に基づく秩序だった言動ができています ・周囲や集団に貢献する姿勢・主体的に考え行動する力が身についている	・1、2年生は、企業研修や研修旅行の志望別研修等を通して、進路意識が高まった。 ・3年就職希望者は青年会議所による面接指導や外部講師によるビジネスマナー講習会を通して、社会で求められる力を認識できた。 ・進学希望者に対しての小論文指導、面接指導を全学年の教員で細やかにしている。	・3年次の全商検定1級取得状況：3種目以上74名(121名)、取得率は44.3(65.5)％、1級未取得者は13名(0名)。1級最多取得数は5種目、商業経済検定全科目合格は1名(14名)※()内昨年度人数 ・進路学習デーでは、企業や進学先学校の方から直接、仕事や学びの内容等の説明を聞き、進路実現に向けた課題を把握できた。 ・1、2年生34人が4年制大学見学会に参加。模擬授業や学生の講話により進学意欲を高めた。この経験を進路実現のためにどうつなげるかが次の課題である。	・体系的に計画実施される進路行事を活用して生徒が適切な進路選択を行っている。 ・各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が、学年に応じた形で身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率共に100％である。	・生徒の実態をうけ、自己表現力育成プログラムのインプットとアウトプットのバランスを見直した。 ・3年次進学希望者への小論文指導、面接指導を教職員で担当を決めて実施する。就職希望者については社会人による面接指導を継続して実施する。 ・鳥商手帳の活用 (自身の考えの変容に気づき、進路選択に資する) ・検定週間や補習(長期休業中、平日)を設定。(学習内容定着のため) ・4年制大学の大学研修・大学見学会・オープンスクールへの参加の勧奨。 (進路実現に向けた準備の早期化を促すため) ・全学年対象の公務員セミナーの継続。	・自己表現力育成プログラムに基づいて、国語科と連携してニュースの要約や意見を書くことを週課題として実施し、インプット量を増加させた。 ・進学希望者への小論文指導を7月より開始。全職員による面接練習を6月に実施。 ・青年会議所による面接指導を8月に実施。受験先を決定した後であり、本番を想定して臨めた。 ・1年が10月のフィールドスタディに向けて準備をしており、職業観、勤労観を養っている。 ・3年の課題研究や、学校設定科目で企業と連携して地域社会の問題を考える機会をもつことで、職業や仕事に対する意識が高まった。	B
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	【望ましい職業観、勤労観を身につける】 ・体験的活動で効果的に身につけている ・自立・自律のための実践力や応用力が身につけている	・3年次の全商検定1級取得状況：3種目以上74名(121名)、取得率は44.3(65.5)％、1級未取得者は13名(0名)。1級最多取得数は5種目、商業経済検定全科目合格は1名(14名)※()内昨年度人数 ・進路学習デーでは、企業や進学先学校の方から直接、仕事や学びの内容等の説明を聞き、進路実現に向けた課題を把握できた。 ・1、2年生34人が4年制大学見学会に参加。模擬授業や学生の講話により進学意欲を高めた。この経験を進路実現のためにどうつなげるかが次の課題である。	・体系的に計画実施される進路行事を活用して生徒が適切な進路選択を行っている。 ・各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が、学年に応じた形で身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率共に100％である。	・鳥商手帳の活用 (自身の考えの変容に気づき、進路選択に資する) ・検定週間や補習(長期休業中、平日)を設定。(学習内容定着のため) ・4年制大学の大学研修・大学見学会・オープンスクールへの参加の勧奨。 (進路実現に向けた準備の早期化を促すため) ・全学年対象の公務員セミナーの継続。	・7月に公務員セミナーを実施し、13人が参加。(3年受講者5人が公務員試験を受験) ・夏季補習は、延べ187人(204人)が参加した。年々減少傾向である。 ・ークラス減少の影響もあるが、3年次 全商3種目以上合格24人(41人)、2種目合格54人(62人)と苦戦している。	C	・担任面接やキャリアアドバイザーとの面接の機会を増加させる。 ・進路別学習会の設定を検討する。 ・1、2年次の3学期に特別授業を設け、来年度の検定取得につなげる。
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的、計画的にキャリア教育に取り組んでいる ・将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択ができています ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に主体的に取り組んでいる	・新型コロナウイルス感染症による臨時休業が2回(4月、7月)あったが、行事の実施方法や日程の変更を行い、大部分の行事に予定どおり参加できた。 ・学校保健委員会の協議で「コロナ禍における基本的な生活習慣の乱れ」を指摘された。 ・3年間の健康教育LHR(けが予防の体づくり)により、実施した3年次生の体づくりに対する意識は向上した。 ・体力テスト等の結果を見ると、鳥取県平均を下回っている種目が複数あり、運動習慣がない生徒が増えている。 ・生徒へのアンケートより 授業に集中できている 91.9％ 朝食を毎日食っている 89％ 就寝・起床・食事など規則正しく生活している 80.6％ 睡眠が足りない 62.4％	・定期考査前、検定前の学習時間は長いが、通常時の自宅学習時間は短い。家庭学習時間：1年 48.4分(50.1)、2年 43.2分(29.6)、3年 30.7分(35.6)※()内は昨年度数 ・コロナ感染及び異常気象による臨時休業時に学習保障としてリモート授業で、生徒は安心して得られる反面、授業理解は限定的である。 ・1年生の学習評価に観点別評価が今年度より導入された。	・適切な自己管理が行われており、自主的な運動を心がけ、体力向上に努めている。 ・授業に集中できている生徒が95％以上である。 ・朝食を毎日食べている生徒が90％以上である。 ・睡眠が足りない生徒が50％以下である。 ・商業科目、普通科目とも主体的に学んでいる。	・健康教育LHR(食育)の実施と、年間を通した啓発活動。 ・人間関係づくりの教材作成と、入学時からの活用。 ・アンケート(学校生活・健康教育・長期休業明け)の継続による、生徒の心のケア。 ・体育行事(体育祭、強歩大会)の実施。	・健康教育LHR(食育)を4月に実施。保健委員会も6月に食育月間にあわせて活動を行った。 ・仲間作りのため親睦LHRを4月に実施し、新クラスのスタートがスムーズに進んだ。 ・体育祭を9月に実施。 ・長期休業明けアンケートを1学期及び2学期始業後に実施。生徒の状況の変化を確認し、情報の共有、生徒対応を行った。	B
3. 健康に留意し、学力向上と部活動等に励む	【健康に留意する】 ・基本的な生活習慣の大切さを理解している ・運動・食事・睡眠に留意して規則正しい生活を送っている	・新型コロナウイルス感染症による臨時休業が2回(4月、7月)あったが、行事の実施方法や日程の変更を行い、大部分の行事に予定どおり参加できた。 ・学校保健委員会の協議で「コロナ禍における基本的な生活習慣の乱れ」を指摘された。 ・3年間の健康教育LHR(けが予防の体づくり)により、実施した3年次生の体づくりに対する意識は向上した。 ・体力テスト等の結果を見ると、鳥取県平均を下回っている種目が複数あり、運動習慣がない生徒が増えている。 ・生徒へのアンケートより 授業に集中できている 91.9％ 朝食を毎日食っている 89％ 就寝・起床・食事など規則正しく生活している 80.6％ 睡眠が足りない 62.4％	・適切な自己管理が行われており、自主的な運動を心がけ、体力向上に努めている。 ・授業に集中できている生徒が95％以上である。 ・朝食を毎日食べている生徒が90％以上である。 ・睡眠が足りない生徒が50％以下である。 ・商業科目、普通科目とも主体的に学んでいる。	・健康教育LHR(食育)の実施と、年間を通した啓発活動。 ・人間関係づくりの教材作成と、入学時からの活用。 ・アンケート(学校生活・健康教育・長期休業明け)の継続による、生徒の心のケア。 ・体育行事(体育祭、強歩大会)の実施。	・健康教育LHR(食育)を4月に実施。保健委員会も6月に食育月間にあわせて活動を行った。 ・仲間作りのため親睦LHRを4月に実施し、新クラスのスタートがスムーズに進んだ。 ・体育祭を9月に実施。 ・長期休業明けアンケートを1学期及び2学期始業後に実施。生徒の状況の変化を確認し、情報の共有、生徒対応を行った。	B	・基礎的な生活習慣の定着ため、保健委員会にて食育に関するコンテスト等を企画・実施する。
	【学力向上に努める】 ・主体的な授業への取り組み ・進路実現を意識した継続的な自宅学習	・定期考査前、検定前の学習時間は長いが、通常時の自宅学習時間は短い。家庭学習時間：1年 48.4分(50.1)、2年 43.2分(29.6)、3年 30.7分(35.6)※()内は昨年度数 ・コロナ感染及び異常気象による臨時休業時に学習保障としてリモート授業で、生徒は安心して得られる反面、授業理解は限定的である。 ・1年生の学習評価に観点別評価が今年度より導入された。	・適切な自己管理が行われており、自主的な運動を心がけ、体力向上に努めている。 ・授業に集中できている生徒が95％以上である。 ・朝食を毎日食べている生徒が90％以上である。 ・睡眠が足りない生徒が50％以下である。 ・商業科目、普通科目とも主体的に学んでいる。	・年間2回の自宅学習時間調査の継続実施。 ・グループフォームによる課題提出等の活用。 (授業を大切にさせ、自主的に学習に取り組む仕掛けを行い、授業力向上を図るため) ・進路指導部・学年・教科との一層の連携。 (補習・模試希望者の募集等で意識高揚を図るため)	・6月に自宅学習調査を実施。1年142.2分(152) 2年144.0分(157) 3年149.5分(134) 学習時間は年々減少傾向にある。	C	・補習、模試の募集の周知を学年と協力して徹底し、進路実現に必要な学力を身に着ける。 ・クロムブックを活用した課題提出に取組む。 ・授業スタイルを工夫し、探究的な学びにつながる授業へ変化させていく。
	【部活動に励む】 ・多くが部活動等に励んでいる ・目標達成への努力を積み重ねることで人間的に成長している	・全国大会出場の部活動は5部であった。 ・コロナ禍でも、各都府練習方法を工夫している。 ・前期授業評価アンケートより 部活と学習の両立ができていない 28％ ・ほとんどの部活動に加入しているが、人間的成長につながっていない面もある。	・定期考査前、検定前の学習時間は長いが、通常時の自宅学習時間は短い。家庭学習時間：1年 48.4分(50.1)、2年 43.2分(29.6)、3年 30.7分(35.6)※()内は昨年度数 ・コロナ感染及び異常気象による臨時休業時に学習保障としてリモート授業で、生徒は安心して得られる反面、授業理解は限定的である。 ・1年生の学習評価に観点別評価が今年度より導入された。	・適切な自己管理が行われており、自主的な運動を心がけ、体力向上に努めている。 ・授業に集中できている生徒が95％以上である。 ・朝食を毎日食べている生徒が90％以上である。 ・睡眠が足りない生徒が50％以下である。 ・商業科目、普通科目とも主体的に学んでいる。	・部活動方針を守った活動時間の設定と学習との両立。 ・生徒主体の部活動運営と、それを支える部顧問による創意工夫。	・87％の生徒が部活動に加入している。 ・6部(5)が全国大会へ出場した。 ・部活動との両立ができていると答えた生徒66％(72)	B
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	【社会人に必要な力を身につける】 ・笑顔の挨拶ができています ・時間を厳守している ・制服を適切に着こなしている ・丁寧な言葉遣いができています	・ほとんどの生徒が挨拶できており、チャイム前行動ができる。 ・マスクのせいか、笑顔の挨拶ができています生徒が少ない。	・定期的な身だしなみ指導と、丁寧な日常的指導。 (マナー等も含め自己管理できることを目指す) ・学校運営協議会で意見や提言をいただく。	・4月～9月遅刻回数は1日平均3.06回(2.00)と増加。一方で対象生徒の多くは前年度より出席率は高くなっている。 ・身だしなみ指導にて再検査が必要となる生徒28.6％(9月)	B	・身だしなみ指導でのセルフチェックを段階的に導入。	
	【ビジネス実践力を向上させる】 ・習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活用している	・鳥商デパートは、昨年度同様、生徒の家族と企業等の関係者のみで開催した。売り上げは5,317,234円。来場者は1,936人。 ・年次が進むごとに、鳥商手帳を活用している生徒が増えている。 ・新たに導入したジャパネット(オンライン辞書辞典検索サイト)、朝日げんさくくん(新聞記事検索閲覧データベース)等の活用が進んだ。	・場に応じた適切な制服の着こなし、挨拶言葉遣いができる。 ・第30回鳥商デパートにおいて、鳥商で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用することができる。 ・図書などを利用した情報収集や、鳥商手帳を活用することができる。 (自分の考えをまとめるため) ・グローバル社会を実感できる機会を1度以上持つている。	・全生徒が鳥商デパート運営で創造力及び実践力を高める。 ・生徒主体で鳥商デパート経営委員会、マナー講習会等を運営する。 ・鳥商手帳の活用と、新聞データベースや図書館の利用を一層推進する。 (今まで以上に社会へ目を向けさせるため)	・4月から経営委員が鳥商デパートの準備を進めている ・鳥商デパート取捨会議を7月及び9月に開催し、進捗状況を確認した。 ・9月末時点での図書貸し出し冊数は延べ675冊。一人当たり1.4冊(2.9)。授業での利用時間は147時間(84)	B	・鳥商デパートで得たデータをもとに生徒が自ら改善策を考え課題解決のために主体的に行動できるようにする。 ・鳥商デパート開催にむけて、生徒によるビジネスマナー指導を行い、生徒に自覚と責任を意識させる。
	【グローバル感覚、語学力を磨く】 ・交流を通してグローバル感覚が育っている ・英語運用能力が向上している	・エセックス高校との月1回のオンライン交流を継続。日本在住のエセックス高校卒業生を鳥商デパートに招き、対面で交流した。 ・鳥大留学生との交流会(3年)モンゴル・ボルノール町中等学校とのオンライン交流(ES9)を実施 ・全商英検合格者数1級9名(7)2級47名(40)3級151名※()内は昨年度数 ・4割の生徒が英語が苦手と回答している。	・エセックス高校訪問に向けて、オンライン交流を継続しながら、幅広い生徒の参加を促す。 ・国際交流で得られた情報を全生徒へ発信する。	・エセックス高校訪問に向けて、オンライン交流を継続しながら、幅広い生徒の参加を促す。 ・国際交流で得られた情報を全生徒へ発信する。	・バーモント交流団が4月に来校。授業体験及び買い物体験で生徒が英語でのコミュニケーションを実践。 ・バーモント州エセックス高校とのオンライン交流を5月及び6月に実施。 ・9月全商英検合格者 1級7人(5)2級11人(26)3級117人(157) ・「とびたて留学ジャパン」プログラム 2名採用(1名は8月にアメリカLAへ短期留学、1名は10月に渡米予定)	B	・オンライン交流への参加を全校生徒へと広げる。 ・「とびたて留学ジャパン」プログラム参加者による報告会を行い、国際交流への興味を引出す。
5. 業務改善の取組	・校務分掌・任務分担の見直しが進んでいる	・年度途中でも校務分掌、任務分担の変更を行ったが、一部の業務の偏りは解消できず、時間外業務削減が実現していない。 ・各種アンケート類はGoogleFormsで実施。集計等の時間が短縮された。 ・生徒の出欠管理等を掲示板で共有し、業務の効率化が進んだ。	・年間の時間外業務時間の合計が360時間を超える勤務者が7人以下にする。	・部活の方針の徹底と、部活動の月別計画、実績表の活用。 ・部活動を生徒主体で行い、活動の質を高める。 ・対外業務停止日を設定する。(夏期休業中) ・校務分掌の任務分担を見直し、業務量の適正化を図る。 ・教員業務支援員へ業務を依頼し、教員の負担軽減を図る。	・8月に業務停止日を設定 ・A1採点の導入(6月)。実力テスト(8月)、2学期中間考査にて一部教科で実施。 ・掲示板を活用して職員朝礼を短縮。分掌、学年で打合せや諸準備に時間が使えるようになった。	C	・A1採点の普及。
	・長時間勤務者が解消している	・顧問に月別計画実績を丁寧に確認・指導。部活の時間外業務は多くない。 ・勤務時間の延長・短縮等で時間外業務を極力減らしているが、昨年度比8％増である。(4月～1月)また、年間の時間外業務時間の合計が360時間を超える勤務者が13人であった。			・教員業務支援員の座席を職員室に変更。業務が頼みやすい環境とした。 ・勤務割振り変更等により、時間外業務時間が昨年度比10％減である。時間外業務月45時間以上の職員が延べ22人(39)である。		・教員業務支援員へ依頼できる業務のマニュアル作成。

評価基準	A:十分達成 [100%]	B:概ね達成 [80%程度]	C:変化の兆し [60%程度]	D:まだ不十分 [40%程度]	E:目標・方策の見直し [30%以下]
------	------------------	-------------------	--------------------	--------------------	------------------------